第35回あかつき賞表彰式

児童、生徒のみなさんの敬称は省かせていただきました。

部門	賞	園/校名	氏 名	タイトル
未満	クジラ	中央保	田村 結希	うごきません
	イルカ	中央保	菊池 美桜花	おたまじゃくしの101ちゃん
		佐賀保	矢野 希帆乃	ともだちくるかな
		佐賀保	櫻木 太鳳	パンどろぼうVSにせパンどろぼう
1年	クジラ	拳ノ川小	小橋 絵麻	うごきません
	イルカ	南郷小	橋田 侑佳	きえたケーキ
		入野小	田村 明希	スイミー
		佐賀小	田辺 櫻	にちようびはパンケーキ!
2年	クジラ	拳ノ川小	宮﨑 健	こっちにおいでよ、ちびトラ
	イルカ	入野小	野並稟	ニャーゴ
		佐賀小	前口恋春	ちいさなちいさなまほうのおしろ
		佐賀小	土居小櫻	ちいさなちいさなまほうのおしろ
3年	クジラ	佐賀小	田辺 虎駕	おしいれのぼうけん
	イルカ	佐賀小	秋田 一颯	のんびりオウムガイとせっかちアンモナイ
		佐賀小	松田 歩南	とらとほしがき
		南郷小	金平 讃汰	とうちゃんのトンネル
4年	クジラ	南郷小	大西 舞帆	しあわせになあれ
	イルカ	南郷小	宮尾 友歌	たんぽぽでんしゃ
		南郷小	藤原 善	バムとケロの日曜日
		佐賀小	喜多 陽咲	ぼくの村にサーカスがきた
5年	クジラ	田ノロ小	有友 日葵	わさおのきもち
	イルカ	南郷小	宗﨑 瑚太朗	きみはほんとうにステキだね
		南郷小	宮尾 奎哉	はのはのはなし
		南郷小	石橋 愛海	たのしいムーミン一家
6年	クジラ	南郷小	武政 優花	めっきらもっきらどおんどおん
	イルカ	田ノロ小	矢野 愛梨	ハロウィンべんとう
		田ノロ小	ハジィフ 美瑠	ぼくは満員電車で原爆を浴びた
		田ノ口小	金子 花菜	とびっきりのともだち
館長特別賞		佐賀小3	篠田栞	いのちをいただく
昭長	可別員	佐賀小1	伊尾木 菜月	かさこじぞう

この日は、前の応募があり、 第25回感想画コンク 令和7年2月24日に表彰式を行いました。 ルの作品募集について、 9 人の子どもたちから1

2 2 点

彰式が早く終わるのを待ちわびていました。朝になりましたが、子どもたちは大喜びで、へこの日は、前日からの時ならぬ大雪で、^ 会場の外は一面の積雪が 外での雪遊びを あり、 会場内での 表

本紙では、

子どもたちの喜びの様子をお届けします。

大方あかつき館報

第**42**号 2025年5月発行

∭ 上林暁文学のふるさと

あ

かつま、第42号

大方あかつき館

2025年度(令和7)は俳句大会の年です

子どもたちに人気の北大路翼がやって来る

第2回文学講座 つばさの俳句大会

令和7年7月20日(日) 13:00~16:00 吟行: 賀茂神社の夏祭り



あかつきシアターは大方あかつき館で行っている

迫力あるスクリーンをお楽しみください。

映画の上映会です。

上林暁文学館

◆令和7年度 第 18 回上林暁忌俳句大会

: 2025年8月24日(日)9:30 受付 : 黒潮町保健福祉センター2階大ホール 者:田村乙女さん(高知県俳句連盟副会長)

上林暁の命日(8月26日)に近い休日に隔年で開催して いる俳句大会です。今回は、選者に田村乙女さん(写真)を お迎えします。

前回の大会に参加してく ださった皆さんには、応募 要項をお送りしご案内いた しますが、俳句大会に興味 のある方は、事務局までお 問あわせください。

☎ 0880 • 43 • 2110 事務局:武政

(大方あかつき館)

する。 恐る恐る。



それなりに見えるから不思議だ。して風光明媚とは言い難い場所だは、上林の作品にはたくさん登場表紙の写真は牡蠣瀬川の下流で

こうして本の表紙になる口常的にも見慣れていて、佐西南大規模公園の前。こ

昭和を代表が野和を代表が

当日、出席された入賞者のみなさん

展示ギャラリーの様子

第25回

田ノ口小5 有友日葵

感想画コンクール表彰式





拳/川小1 小橋絵麻



時ならぬ積雪に大喜びの子どもたち



佐賀小3 田辺虎駕



南郷小4 大西舞帆



南郷小6 武政優花





定価:本体2400円+税



公式ガイドブック』といったところであろうか。書としての魅力が随所に表現されていて、コンパ々編者の山本善行氏にとって六冊目の編集となり、上林暁の本『海と旅と文と』が2025年3月31

クトな『上林の人)日発行される

新刊本の紹介



年3月1日(土)大方あかつき館レクチャーホーり、令和6年度で第35回を迎えた表彰式が令和7学生の作文を対象に「あかつき賞」を授与してお 学年ごとの応募者数は、高学年になるに従って

はでいった。 によっな傾向は旧態依然であることは否めないに でした。作文の趣旨を変えることなく、文章をま でした。作文の趣旨を変えることなく、文章をま でした。作文の趣旨を変えることなく、文章をま でした。作文の趣旨を変えることなく、文章をま とめるためのほんの少しのアドバイスがあれば、 作文の楽しさを覚えていけるだろうにと思われま しているのが残念

れましたが、紙面の都合上、朗読発表された3今回は、応募者24名のうち次の7名の方が入賞

第35回 あかつき賞表彰式

上林暁の業績を顕彰す

ンスホールに置いてますので、ご自由にお持ち帰なお、受賞作品集は大方あかつき館のエントラ名の方の作品を掲載します。



佐賀小学校

ある日、わたしは、校ていの草ぬきをまい日してくれ

ているじかんも、休みじかんも、ずっとしゃがんで草森さんは、わたしたちがきょうしつでおべんきょうを じかんに、校ていであそんでいるうちに、

かしてくって、トミン・・・・かけで、わたしも森さんのとなりでちょっとずつ草ぬきかけで、わたしも森さんのとなりでちょっとずつ草ぬきりまくしょくしょがあるようになりました。それがきっしょう! ました。森さんとの草ぬきがどんどんたのしくない、かまってこうやってつかうんだぁ。」くれて、かまのつかいかたをおしえてくれました。

「森さんのところいってみよう。いっしょに草ぬきしなが休みやひる休みに、

こわたしがいうと、ゆめちゃんやようちゃんやのどか こた。いま、インフルエンザがはやっているので、も、三学きになって森さんのすがたが見えなくなりいんいっしょにいくようになりました。

森さんと草ぬき

目分がんばれよ

心のやさしい友達 久しぶりのもち作り 幸せの四つ葉のクロ ラッキョウの四代目 畦地梨乃亜(拳ノ川小4) 千光寺誉希(拳ノ川小3)



ラッキョウの四代目 拳ノ川小学校 三年 千光士

ぼくは、三年生になるまでも、ラッキョウのお手伝いをたまにしていたけど、今年は、土日ずっとラッキョウのお手伝いをしに行きました。土曜日の朝九時に、大方の畑にじいじとぼくでラッキョウを植える畑の場所をたいらにしました。ぼくは、でリッキョウを植える畑の場所をたいらにしました。ぼくは、でした。大きいスコップでじいじも手伝ってくれたので、すんでした。大きいスコップでじいじも手伝ってくれたので、すんでした。大きいスコップでじいじも手伝ってくれたので、すべこれの終わったけど一れつで、いきがあらくなりました。じいじが、

/。でもつかれたので、気合いが入って、すぐ二れつ終わりま-「あと二れつずつできたらいったん三十分きゅうけいしようか。

と言ったらじいじが、 「たいへんやろ。」 「たいへんやろ。」 「こんなたいへんやったがや。」 と言ったらじいじが、

「上手。」
「上手。」
「上手。」
「上手。」
「上手。」 と言って休けいしました。休けいが終わってからまたスコップで九れつを終わらせました。 日曜日の朝八時に大方の畑に行ってラッキョウのお手伝いをしました。まずじいじがラッキョウの葉と根っこをきかいで切っていてくれたので、ぼくは、ラッキョウをすなからぬきました。 母は、ぼくがぬいたラッキョウの根っこと葉をもっと短く切ってくれました。さいしょは、小さ目のかごに入れて、たまったら大きな黒いかごにうつしました。小さいかごから黒いかごに入れるのは、ぼくの仕事でした。黒いかごがいっぱいになったら、入れるのは、ぼくの仕事でした。黒いかごがいっぱいになったら、









佐賀小3

田ノ口小6 金子花菜

松田歩南















入賞者のみなさん

菊池美桜花

前口 恋春

南郷小4

田ノ口小6 矢野 愛梨



入野小1 田村明希

佐賀小2 土居小櫻

佐賀小4

喜多 陽咲









田ノ口小6 ハジィフ 美瑠

佐賀保 矢野 希帆乃

橋田 侑佳

佐賀小3 秋田一颯

南郷小4 宮尾 友歌

|言いました。じいじが、ニコニコして見て「見て、上手にほまれが切れちょう。」にめてくれました。そして母がじいじに、

言われて、うれしかったです。でも、朝早くからのたいへんな仕事上手にできようけん四代目になれるね。」 母に、

もラッキョウのお仕事をしているのですごいなと思いました。それは、「いちでは、ラッキョウのお手伝いを続けてみて、じいじとばあばはいつら楽しかったです。

またしたいと思います。三代目の父をついでラッキョウの仕事をしよ四代目になれるかは、わからないけど、ラッキョウの仕事をぼくもいないかを上手に見つけているからです。すごいなと思いました。暑い中じいじとばあばたちは、ひとつずつラッキョウが虫に食べられて



心のやさしい友達

上川口小学校 六年 美土路

ぼくは、元々横浜市にいました。横浜にいた時は、学校にいくのがとても楽しくて、毎日友達とサッカーやゲームをして遊んだりして、いつも楽しい日々を過ごしていました。 五年生の秋ごろに父と兄といっしょに、高知県の中村に旅行に来たことがありました。また、六年生のゴールデンウィークには、黒潮町と中村に来ました。その後、父が「自然が豊かな町でとても良いとろこだね。」といれました。
あられ、そで何にいました。

「移住してみる。」ある日、家で両親がぼくに

みんなからと言った時、みんなだまってしまいました。と言った時、みんなだまってしまいました。」学校で先生が、

くことにしました。そして七月でろついに行くことになりました。と言いました。ぼくは、少し地震のこともあって不安だったけど、

「行っちゃうの。_